

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	生産デザイン工学科(機械創造システムコース)				8	8	7	
	生産デザイン工学科(知能ロボットシステムコース)				8	8	7	
	生産デザイン工学科(電気電子コース)				11	11	7	
	生産デザイン工学科(情報システムコース)				7	7	7	
	生産デザイン工学科(物質化学コース)				7	7	7	
	生産デザイン工学専攻			1	8	9	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=45&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 高専統一シラバスシステムにより、教育課程に記載されている各授業科目について到達目標を設定している。授業計画書については担当教員により見直しを行い、教務委員会にて確認の上、Webシラバスにて公開している。 ・授業計画書の作成・公表時期 翌年度の授業計画、担当教員を11月～12月にかけて決定し、その後2月末までをシラバスの入力時期としている。 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=45&lang=ja</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

「北九州工業高等専門学校学則」、「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」及び「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画（シラバス）にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・本科

学期成績及び学年成績の平均評点（以下「GPA」という。）は、次の方法で計算する。

$GPA = (\text{科目評点} \times \text{単位数}) \text{の総和} / \text{総単位数}$

必要数を超えて取得した選択科目がある場合は、高得点の科目から順に必要科目数のみをGPAの計算に算入し、その他の選択科目の成績は、GPAの計算から除外する。

学外で取得した科目の得点は、GPAの計算から除外する

・専攻科

以下の基準により平均評点を計算する。

第1学年

単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。

第2学年

単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計62単位分の平均点とする。

上記により、算出した平均点及びGPAにより、成績分布把握を行っている。

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujuuhou/gakugyouseiseki.pdf 北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujuuhou/senkoukarisyuu2.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

ディプロマ・ポリシー、「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」及び「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき、以下のように取り組んでいる。

ディプロマ・ポリシー

幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

学修成果

① (機械創造システムコース)

数学、物理に関する知識、機械工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

(知能ロボットシステムコース)

数学、物理に関する知識、機械工学、情報工学、制御工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

(電気電子コース)

数学、物理に関する知識、電気電子工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

(情報システムコース)

数学、物理に関する知識、電気電子工学、情報工学、システム制御工学に関する知識・技術を理解し、コンピュータを駆使して問題解決に応用できる。

(物質化学コース)

数学、物理、化学、生物に関する基礎知識、物質化学工学に関する専門知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

②技術者に必要な倫理観と幅広い視野を身に付け、環境に配慮した持続可能社会の構築に貢献する意志を持つ。

③多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。

「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」

・各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F 1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。

(1) 学年G P Aが1. 3 0以上であること。

(2) 評語「F 2」がないこと。

(3) 特別活動の評価が、合格であること。

(4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあっては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。

(5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。

・学年G P Aが1. 3 0未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1. 0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。

・課程修了仮認定の者は、評語「F 1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該

年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。
 ・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。
 ・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。

「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」
 (成績の評価)

- 1 成績は、授業科目ごとに第4条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。
- 2 成績の評価は、次の区分による。

評 価	優	良	可	不可
評 点	100～80	79～70	69～60	59～0

- 3 再試験により合格した授業科目の評点は、60点とする。
- 4 試験において不正行為を行った者は、当該試験科目以降の受験を認めない。また、当該試験期間中におけるすべての試験科目の成績は0点とする。
 (単位の認定)

次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

- (1) 前条第2項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。
- (2) 欠課時間数が純授業時間数の3分の1を超えないこと。
 (修了に必要な単位)

専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上（そのうち、一般科目は10単位以上、専門基礎科目は14単位以上、専門科目は38単位以上とする。）とする。

また、専攻科学生の成績評価は次の基準により取り扱うものとする。

第1学年

単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。

第2学年

単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計62単位分の平均点とする。

卒業の認定に関する方針の公表方法	学業成績の評価等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouiku_jyohou/gakugyouseiseki.pdf ディプロマ・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html 専攻科の授業科目の履修等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouiku_jyohou/senkoukarisyuu2.pdf
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/jikotenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kct.ac.jp/annai/gaibuhyouka/ninshyohyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生産デザイン工学科 機械創造システムコース
教育研究上の目的(公表方法: https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html)
(概要) 教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成 教育目的：(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得 (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得 (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養
卒業の認定に関する方針(公表方法： 学業成績の評価等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/gakugyouseiseki.pdf ディプロマ・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)
(概要) 幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。 機械創造システムコース 数学、物理に関する知識、機械工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。 各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。 (1) 学年GPAが1.30以上であること。 (2) 評語「F2」がないこと。 (3) 特別活動の評価が、合格であること。 (4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。 (5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。 ・学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。 ・課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。 ・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。 ・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法： 教育目標 https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html カリキュラム・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)

(概要)

生産デザイン工学科共通

A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

機械創造システムコース

数学、物理、工業力学、材料力学、熱力学、水力学の機械基礎科目と、機械工作法、製図、設計工学の設計生産科目、さらに4、5年生には、これら機械系技術に加え、メカトロニクスや制御工学の知識をも活用する創造デザイン演習などの科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

<https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び、学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分に持ち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- ① 数学、理科の分野に興味がある者
- ② 工学の分野に興味がある者
- ③ 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者

④ 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者

学部等名 生産デザイン工学科 知能ロボットシステムコース

教育研究上の目的(公表方法:<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

(2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得

(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

卒業の認定に関する方針(公表方法：

学業成績の評価等に関する規則

<https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/gakugyouseiseki.pdf>

ディプロマ・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

知能ロボットシステムコース

数学、物理に関する知識、機械工学、情報工学、制御工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。

(1) 学年GPAが1.30以上であること。

(2) 評語「F2」がないこと。

(3) 特別活動の評価が、合格であること。

(4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。

(5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。

・学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。

・課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。

・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。

・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法：

教育目標

<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html>

カリキュラム・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

生産デザイン工学科共通

A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

知能ロボットシステムコース

数学、物理、機械工学、情報処理、制御理論を基礎に、機械制御システムであるロボットの設計製作を対象として、インターフェース技術、組込み技術、設計技術を活用するための科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

<https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び、学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分に持ち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- ① 数学、理科の分野に興味がある者
- ② 工学の分野に興味がある者
- ③ 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者

④ 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者

学部等名 生産デザイン工学科 電気電子コース

教育研究上の目的(公表方法:<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

(2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得

(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

卒業の認定に関する方針(公表方法：

学業成績の評価等に関する規則

<https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/gakugyouseiseki.pdf>

ディプロマ・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

電気電子コース

数学、物理に関する知識、電気電子工学に関する知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。

各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。

(1) 学年GPAが1.30以上であること。

(2) 評語「F2」がないこと。

(3) 特別活動の評価が、合格であること。

(4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。

(5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。

・学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。

・課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。

・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。

・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法：

教育目標

<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html>

カリキュラム・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

生産デザイン工学科共通

A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

電気電子コース

数学、物理、電気回路、電子回路、電気磁気学、制御工学、情報処理を基礎として、電力と情報分野の科目とエレクトロニクスに関する科目、問題解決型の実習・実験科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

<https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び、学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分に持ち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- ① 数学、理科の分野に興味がある者
- ② 工学の分野に興味がある者
- ③ 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者

④ 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者

学部等名 生産デザイン工学科 情報システムコース

教育研究上の目的(公表方法:<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html>)

(概要)

教育理念: 明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的: (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得

(2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得

(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

卒業の認定に関する方針(公表方法:

学業成績の評価等に関する規則

<https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/gakugyouseiseki.pdf>

ディプロマ・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

情報システムコース

数学、物理に関する知識、電気電子工学、情報工学、システム制御工学に関する知識・技術を理解し、コンピュータを駆使して問題解決に応用できる。

各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。

(1) 学年GPAが1.30以上であること。

(2) 評語「F2」がないこと。

(3) 特別活動の評価が、合格であること。

(4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。

(5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。

・学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。

・課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。

・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。

・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:

教育目標

<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html>

カリキュラム・ポリシー

<https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html>)

(概要)

生産デザイン工学科共通

A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

情報システムコース

数学、物理、電気回路、電子回路、情報処理、制御理論を基礎として、システム制御を対象とする科目と ICT (情報通信技術) を活用するための科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法:

<https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び、学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分に持ち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- ① 数学、理科の分野に興味がある者
- ② 工学の分野に興味がある者
- ③ 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
- ④ 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者

<p>学部等名 生産デザイン工学科 物質化学コース</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法:https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成</p> <p>教育目的：(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得 (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得 (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法： 学業成績の評価等に関する規則 https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/gakugyouseiseki.pdf ディプロマ・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>幅広い工学基礎、創造的技術開発力、及び技術者としての倫理観を身に付けるとともに、地球環境に配慮し、持続可能社会の構築に貢献できる技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。</p> <p>物質化学コース</p> <p>数学、物理、化学、生物に関する基礎知識、物質化学工学に関する専門知識・技術を理解し、問題解決に応用できる。</p> <p>各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。</p> <p>(1) 学年GPAが1.30以上であること。 (2) 評語「F2」がないこと。 (3) 特別活動の評価が、合格であること。 (4) 欠課時間数が純授業時間数(学習単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。 (5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。 ・課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。 ・当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。 ・第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法： 教育目標 https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html カリキュラム・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>生産デザイン工学科共通</p> <p>A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者</p> <p>① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。 ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。</p> <p>(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者</p> <p>① 専門分野における工学の基礎を理解できる。</p>

- ②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。
 (C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者
- ①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
 - ②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
 - ③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
 - ④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。
- (D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者
- ①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
 - ②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
 - ③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
- (E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者
- ①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
 - ②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
 - ③英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。
- (F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者
- ①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
 - ②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
 - ③技術者としての役割と責任を認識できる。
- (G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者
- ①健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
 - ②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

物質化学コース

無機化学、分析化学、有機化学、高分子化学、生物化学、物理化学、化学工学等の共通必修科目の上に、4年生から、応用化学系では物質工学や応用化学工学等に関連する必修科目、応用生物系では応用生物学及び食品工学等に関連する必修科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:
<https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

「北九州高専が求める学生像」

北九州高専では、本校の教育理念及び、学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分に持ち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた中学生を求めています。

- ① 数学、理科の分野に興味がある者
- ② 工学の分野に興味がある者
- ③ 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
- ④ 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ者

学部等名 生産デザイン工学専攻

教育研究上の目的(公表方法:<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikuhoushin.html>)

<p>(概要)</p> <p>教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成</p> <p>教育目的：(1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得</p> <p>(2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得</p> <p>(3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養</p>										
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： 専攻科の授業科目の履修等に関する規則</p> <p>https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kyouikujoyouhou/senkoukarisyuu2.pdf</p> <p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)</p>										
<p>(概要)</p> <p>複数分野の工学知識・技術を有機的に結びつけ、総合的に問題を解決できるとともに、技術者としての倫理観、地球的視点を持ち、地域と世界の発展に貢献する意志を持つ技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して専攻科修了を認定する。</p> <p>学修成果</p> <p>①幅広い視野から問題を捉え、複数分野(*)の工学知識・技術を有機的に結びつけ、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を身に付ける。</p> <p>②技術者倫理や一般教養を身に付けることで視野を広げ、技術者として、地域・世界に貢献する意志を持つ。</p> <p>③多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、多様な人々と協働できる。</p> <p>*機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学</p> <p>(成績の評価)</p> <p>1 成績は、授業科目ごとに第4条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。</p> <p>2 成績の評価は、次の区分による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>優</th> <th>良</th> <th>可</th> <th>不可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評点</td> <td>100～80</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59～0</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 再試験により合格した授業科目の評点は、60点とする。</p> <p>4 試験において不正行為を行った者は、当該試験科目以降の受験を認めない。また、当該試験期間中におけるすべての試験科目の成績は0点とする。</p> <p>(単位の認定)</p> <p>次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。</p> <p>(1) 前条第2項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。</p> <p>(2) 欠課時間数が純授業時間数の3分の1を超えないこと。</p> <p>(修了に必要な単位)</p> <p>専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上(そのうち、一般科目は10単位以上、専門基礎科目は14単位以上、専門科目は38単位以上とする。)とする。</p> <p>また、専攻科学生は次の基準により取り扱うものとする。</p> <p>第1学年</p> <p>単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。</p> <p>第2学年</p> <p>単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計62単位分の平均点とする。</p>	評価	優	良	可	不可	評点	100～80	79～70	69～60	59～0
評価	優	良	可	不可						
評点	100～80	79～70	69～60	59～0						

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 教育目標 https://www.kct.ac.jp/annai/kyouikukatsudou/mokuhyo.html カリキュラム・ポリシー https://www.kct.ac.jp/annai/mittsunohoushin.html)</p>
<p>(A) 技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者</p> <p>①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。 ②自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。</p> <p>(B) 専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者</p> <p>①共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。 ②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。</p> <p>(C) 専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者</p> <p>①専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。 ②機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。 ③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。 ④実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。</p> <p>(D) 幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者</p> <p>①専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる、 ②専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。 ③要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。 ④工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。 ⑤工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。</p> <p>(E) 多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者</p> <p>①歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。 ②実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 ③専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。 ④調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。 ⑤英語による基本的な会話ができる。</p> <p>(F) 歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者</p> <p>①歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。 ②工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。 ③技術者としての役割と責任(倫理観)を認識し、説明できる。</p> <p>(G) 多様性のあるチームの中で、成果を上げるために行動できる技術者</p> <p>①メンバーとして、自己のなすべき行動を判断し実行できる。 ②リーダーとして、他者の取るべき行動を判断し、適切に行動させるように働きかけることができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kct.ac.jp/nyushi/adopori.html)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー 「北九州高専が求める学生像」 ・高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者。 ・様々な分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

北九州工業高等専門学校 HP

<https://www.kct.ac.jp/annai/soshiki/>

学校要覧

<https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/kouhoushi/youran/2019youran.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
生産デザイン工学科	—	33人	28人	3人	7人	1人	72人
生産デザイン工学専攻	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			42人				42人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kct.ac.jp/seeds.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生産デザイン工学科	200人	210人	105%	1,000人	1,046人	104.6%	人	0人
機械工学科	0人	0人	0%	0人	0人	0%	人	0人
電気電子工学科	0人	0人	%	0人	0人	0%	人	0人
電子制御工学科	0人	0人	%	0人	0人	0%	人	0人
制御情報工学科	0人	0人	%	0人	0人	0%	人	0人
物質化学工学科	0人	0人	%	1人	1人	100%	人	0人
合計	200人	210人	105%	1,001人	1,047人	104.6%	人	0人
生産デザイン工学専攻	35人	39人	111.4%	70人	94人	134.3%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考) 機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質化学工学科は平成27年度募集停止								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

電気電子工学科	8人 (100%)	0人 (0%)	8人 (100%)	0人 (0%)
電子制御工学科	6人 (100%)	2人 (33.3%)	4人 (66.6%)	0人 (0%)
制御情報工学科	3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
物質化学工学科	3人 (100%)	2人 (66.6%)	1人 (33.3%)	0人 (0%)
生産デザイン工学科	167人 (100%)	57人 (34.1%)	108人 (64.7%)	2人 (1.2%)
生産デザイン工学専攻	44人 (100%)	14人 (31.8%)	28人 (63.6%)	2人 (4.5%)
合計	231人 (100%)	65人 (28.1%)	152人 (65.8%)	4人 (1.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内			
		卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書（シラバス）の作成過程 <p>高専統一シラバスシステムにより、教育課程に記載されている各授業科目について到達目標を設定し、授業計画書について担当教員により見直しを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書の作成・公表時期 <p>翌年度の授業計画、担当教員を11月～12月にかけて決定し、その後2月末までをシラバスの入力時期としている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各学年の課程修了は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。ただし、次の各号のすべてを満たした者であっても、評語「F1」の科目がある者は課程修了仮認定とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学年GPAが1.30以上であること。 (2) 評語「F2」がないこと。 (3) 特別活動の評価が、合格であること。 (4) 欠課時間数が純授業時間数（学習単位科目にあつては純学校授業時間数）の3分の1を超えた科目がないこと。 (5) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年GPAが1.30未満であっても、課程修了認定に必要な科目のすべての評点が1.0以上であれば、特例として校長は課程修了を認定する。 ・ 課程修了仮認定の者は、評語「F1」の授業担当教員の指導に従って学習し、当該年度中に「D」の評語を得た時点で、校長が課程修了を認める。 ・ 当該年度中に評語「F1」の科目が解消されないときは、校長はその者の課程修了仮認定を取り消すものとする。 ・ 第5学年の課程を修了した者は、全学年の課程を修了したものとする。 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生産デザイン工学科	167 単位		
	物質化学工学科	167 単位		
	生産デザイン工学専攻	62 単位		

		単位		
G P Aの活用状況（任意記載事項）	公表方法：			
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kct.ac.jp/data/files/annai/haichi/haichizu.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	生産デザイン工学科	234,600円	84,600円	76,800円～ 90,900円	後援会入会金 5,000円 後援会費 25,000円 学生会入会金及び会費 6,800円 教科書代 約40,000円 入寮費 1,500円(寮生のみ) 寄宿料 8,400円～9,600円 (寮生のみ) 寮生会費 3,000円(寮生のみ)
		円	円	円	
	生産デザイン工学専攻	234,600円	84,600円	35,000円～ 95,100円	後援会入会金 5,000円(本科卒業生は除く) 後援会費 26,000円 教科書代 9,000円～50,000円 入寮費 1,500円(寮生のみ) 寄宿料 8,400円～9,600円 (寮生のみ) 寮生会費 3,000円(寮生のみ)
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教育資産の統合とその管理・拡充、組織的カリキュラム・教育内容の改善(スパイラルアップ)の全学的実施を支援・推進に資することを目的とし、創造教育推進センターを設置し、以下の取り組みを行っている。 (1) 学内に蓄積された教材、教授法などの各種教育資産の集約 (2) 教育資産と教員団の協同・議論を通じた更なる高度教材、教授法の開発 (3) アクティブ・ラーニング教材の開発・実施の促進及び全学的運用
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生のキャリア形成並びに就職及び進学等を支援するためキャリア支援室を設置し、以下の取り組みを行っている。 (1) 学生のキャリア形成 (2) 学生の就職及び進学支援 (3) 学生の就職及び進学に関する情報の収集・提供。 (4) 学生のインターンシップ調整
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生が抱える修学、進路等、学生生活上の諸問題について相談に応じるため学生相談室を設置し、以下の取り組みを行っている。

- (1) 学生の修学、進路上の相談に関する助言及び援助
- (2) 学生の健康・生活上の相談に関する助言及び援助
- (3) その他学生の個人的な相談に関する助言及び援助
- (4) 学生相談活動に必要な調査及び研究

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kct.ac.jp/annai/kyouiku/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。